

Economic Indicators

発表日:2020年10月8日(木)

国際収支(2020年8月)

～経常黒字は季調値で7月から大きく改善、輸出の持ち直しを主因に貿易黒字が大幅に拡大～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL:03-5221-4524)

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支
					貿易収支	サービス収支	
2019	8月	21,351	16,003	160	484	▲ 324	17,229
	9月	15,571	14,213	▲ 515	▲ 232	▲ 283	16,526
	10月	18,182	16,918	1,949	1,229	720	15,996
	11月	14,206	17,715	1,750	842	907	17,577
	12月	5,094	18,484	3,306	1,805	1,501	16,300
2020	1月	6,267	16,370	▲ 1,208	▲ 615	▲ 593	18,967
	2月	31,464	23,282	4,822	8,184	▲ 3,362	19,894
	3月	19,268	8,891	▲ 4,691	▲ 1,407	▲ 3,284	14,629
	4月	1,676	2,056	▲ 13,678	▲ 9,861	▲ 3,816	17,007
	5月	10,588	7,021	▲ 8,692	▲ 4,921	▲ 3,771	17,717
	6月	1,184	9,929	▲ 4,438	▲ 1,671	▲ 2,768	16,114
	7月	14,683	9,642	▲ 1,416	557	▲ 1,973	12,124
	8月	21,028	16,475	1,640	5,412	▲ 3,771	16,967

(出所)財務省「国際収支統計」

○8月の経常収支は貿易収支の黒字拡大、第一次所得収支の持ち直しにより7月から大きく増加

8月の経常収支(原数値)は21,028億円の黒字(コンセンサス:20,600億円の黒字、レンジ:12,082億円の黒字～25,150億円の黒字)とコンセンサスをやや上回る結果となった。また、季節調整値では16,475億円の黒字(前月比+70.9%)となった。輸出の持ち直しが続いたことを受け貿易収支の黒字が拡大したことに加え、7月に下振れた第一次所得収支が持ち直したことにより、8月の経常収支は季節調整値での黒字幅が前月比で大幅に拡大した。

経常収支(季節調整値)を項目別にみると、貿易・サービス収支は1,640億円の黒字(7月:▲1,416億円の赤字)と黒字に転じた。貿易収支が5,412億円の黒字と、大幅な黒字となったことが主因である。内容をみると、輸出が前月比+8.8%、輸入が同▲0.7%と、世界各国での経済活動再開が進んでいることを受け、輸送用機器を中心に輸出は7月に引き続き高い伸びとなった。一方、輸入については、原油価格の低迷が下押し圧力となり、7月から小幅に減少している。サービス収支については▲3,771億円の赤字と、赤字幅が拡大した。輸送収支とその他サービス収支の赤字が続いたことや、訪日外客数の急減に伴う旅行収支の黒字低迷が影響した(旅行収支 6月:195億円→7月:175億円→8月:261億円)。

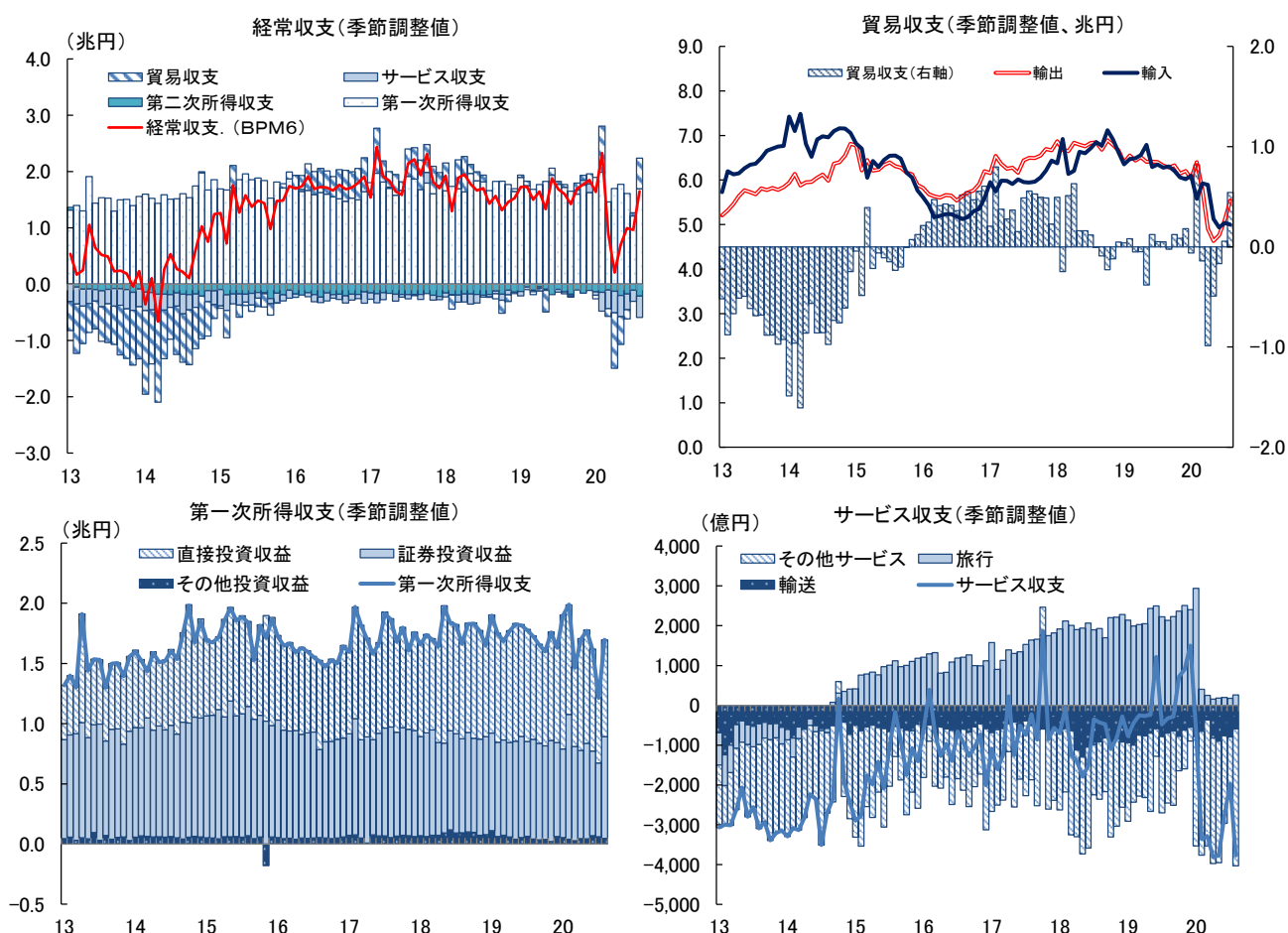
第一次所得収支は16,967億円の黒字(7月:12,124億円の黒字)となった。7月に減少に寄与した直接投資収益の受取が持ち直したことで、前月比で大きく水準を持ち直している。引き続き第一次所得収支が経常収支の黒字を下支えする構図が続いた。

○輸出の持ち直しを主因に、7－9月期の経常収支は前期比で大幅に改善する公算大

以上の通り、8月の経常収支は季節調整値で7月から大きく持ち直した。9月についても貿易収支の黒字拡大により、経常収支は8月からさらに増加すると予想している。

9月の貿易統計上中旬によると、輸出が前年比▲1.9%、輸入が同▲24.2%となった。輸出については、前年比の減少幅を大きく縮小させており、輸出は持ち直しが続く可能性が高い。一方、輸入については、前年比で大幅な減少となっている。これをもとに試算をすると、9月の貿易収支はさらに黒字幅を拡大させるだろう。低水準での推移が続く旅行収支については、一部の国・地域を対象としてビジネスを目的とした訪日客の入国制限緩和が進むなど、訪日外客数回復に向けた動きが進んでいる。とはいえ、国・地域や人数が制限されており、大きなウエイトを占める観光目的の訪日外客受け入れについては先となることから、旅行収支の回復にはまだ時間を要するだろう。第一次所得収支については、7月から持ち直しに転じ、今後も経常収支の黒字を支える構図は続くと思われる。もっとも、前年比でみると、企業収益の悪化による配当金の減少などにより受取額は減少しており、今後も下振れリスクが残ることには注意が必要だ。

7－9月期の経常収支については、各国の経済活動再開を受けた輸出の持ち直しを主因に、経常収支は4－6月期から大幅に改善する公算が大きい。10月以降については、景気の持ち直しに伴い輸入が持ち直すことで貿易黒字は縮小し、経常収支は7－9月期をやや下回る水準での推移となるだろう。



(出所)財務省「国際収支統計」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。